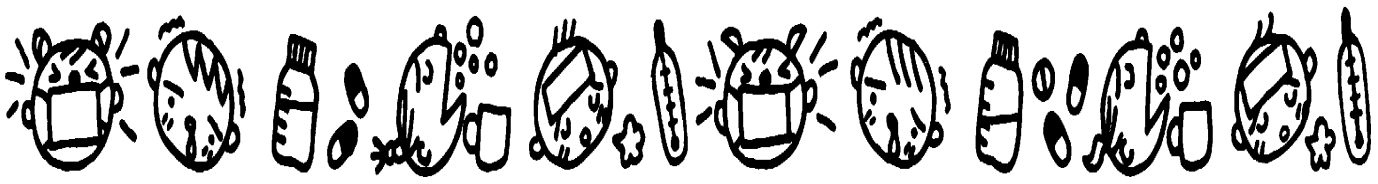
令和６年１１月１４日 １３号	保　健　だ　よ　り	二条保育園

溶連菌感染症(１１月１４日現在)

２歳児　花組　１名

５歳児　月組　１名

以下に厚労省のガイドラインをお示しします。

病原体	溶血性レンサ球菌
潜伏期間	２～５日。伝染性膿痂しん（とびひ）では７～10 日。
症状・特徴	主な症状として、扁桃炎、伝染性膿痂しん（とびひ)、中耳炎、肺炎、化膿性関節炎、骨髄炎、髄膜炎等の様々な症状を呈する。 扁桃炎の症状としては、発熱やのどの痛み・腫れ、化膿、リンパ節炎が生じる。舌が苺状に赤く腫れ、全身に鮮紅色の発しんが出る。また、発しんがおさまった後、指の皮がむけることがある。 伝染性膿痂しんの症状としては、発症初期には水疱（水ぶくれ）がみられ、化膿したり、かさぶたを作ったりする。(参照：「(25) 伝染性膿痂しん」(p.65)) 適切に治療すれば後遺症がなく治癒するが、治療が不十分な場合には、発症数週間 後にリウマチ熱、腎炎等を合併することがある。稀ではあるが、敗血症性ショックを示す劇症型もある。
感染経路	主な感染経路は飛沫感染及び接触感染である。食品を介して経口感染する場合もある。
流行状況	毎年、「冬」及び「春から初夏にかけて」という２つの時期に流行する。不顕性感染例が 15～30%いると報告されているが、不顕性感染例から感染することは稀であると考えられている。
予防・ 治療方法	ワクチンは開発されていない。飛沫感染や接触感染により感染するため、手洗いの励行等の一般的な予防法を実施することが大切である。発症した場合、適切な抗菌薬によって治療され、多くの場合、後遺症もなく治癒する。ただし、合併症を予防するため、症状が治まってからも、決められた期間、抗菌薬を飲み続けることが必要となる。
留意すべきこと 感染拡大防止策	飛沫感染や接触感染、経口感染により感染するため、手洗いの励行等の一般的な予 防法を実施することが大切である。罹患した場合の登園のめやすは、「抗菌薬の内服 後 24～48 時間が経過していること」である

本日（１４日)、高熱で早退する子どもが全体で４名いました。園内で溶連菌や手足口病などの感染症も見られます。お子さんの様子に注意いただき、変わった様子があればお知らせ下さい。